

高経年団地のコミュニティ形成に向けた実証実験「あけテラ芸術祭 2023」 公的集合住宅団地の集約化手法に関する研究その9

正会員 ○安倍ひより* 准会員 長津咲希**
正会員 藪谷祐介*** 正会員 山田信博****
正会員 梶田美結*****

集約化 地域活動 公的集合住宅団地
実証実験 共用空間 コミュニティデザイン

1. 研究の背景と目的

高度経済成長期に建てられた公的集合住宅団地では、高齢化が深刻である。加えて、建物の老朽化も進むことから、需要が低下する郊外部の団地では、集約化が計画されている。札幌市南区のUR あけぼの団地も、2021年から団地再生事業に着手し、一部住棟では住民の団地内の住み替え、もしくは団地外への移転が完了した。今後更に集約化が進められる中で、住民の減少やコミュニティの弱体化が懸念される。そのため、今後は団地住民のみならず、団地外に居住する周辺地域の人々（以下、団地外居住者）を含めたコミュニティの形成が求められる。

このような現状において、団地内に有する集会所やオープンスペースといった共用空間が、コミュニティを築くために重要な役割を果たすと考える。団地内の共用空間を団地内外居住者のニーズに合わせて開放することにより、団地内外のコミュニティを形成し、団地集約化におけるコミュニティの課題解決へと繋がることを考える。

筆者らは、UR あけぼの団地において開かれたコミュニティ形成を目的としたプログラムの開発と担い手の育成に向けて、団地の共用空間を活用した実証実験「あけぼのテラス」を2018年から年に1度^{注1)}実施してきた。

2018年は、団地住民へのアンケート調査の内容を元に企画を検討した。2019年は、団地住民と協働で内容を検討し、更に、周辺店舗や団体と協力した。2022年は、団地自治会、UR との話し合いの中で、物品などの購入だけでなく、芸術に触れたいという要望があったため、創作や活動発表のプログラムを追加し、「あけテラ芸術祭 2022」と題して実施した。2022年は天候が優れず、団地住民の来場者が少なく、芸術祭としての開催が有効であるのか、十分に検証することができなかつた¹⁾。さらなる検証のため、2023年も昨年と同様、芸術祭として企画を検討した。

本研究は、「あけテラ芸術祭 2023」の実施内容の報告と、プログラムの有効性を検証することを目的とする。なお、本研究は2編で構成され、本編では、あけテラ芸術祭 2023 の概要と実施内容について報告し、次編では、イベント当日に実施したアンケート調査の結果から、プログラムの有効性について考察する。

2. UR あけぼの団地の概要

UR あけぼの団地は、1963年～1967年に日本住宅公団によって開発された、札幌市に位置する5階建ての集合住宅団地であり、棟数は28棟、住宅戸数は1040戸である（図1）。2020年の国勢調査によると、人口1148人、高齢化率59.4%である。

3. 概要

概要について、表1に示す。昨年と同様、芸術祭と題して企画を実施した。昨年は、団地外居住者は多かったが、団地住民の参加が少なかった。そのため、あけテラ芸術祭 2023 では、それぞれの日程でターゲットを明確にし、企画を検討した。1日目は団地住民、2日目は団地住民と団地外居住者の両者に訪れてもらうことを狙っている。告知は、団地住民には、各住戸へのチラシ配布と各住棟階段室へのポスター掲示、また、団地外居住者には、団地周辺地域に3000部の新聞折り込みを行った。



図1 あけぼの団地の配置図

表1 あけテラ芸術祭 2023 の概要

日程	2023年8月25日（金）	2023年8月26日（土）
時間	15:00-19:00	10:00-17:00
天候	晴れ（最高気温：34.4℃ 最低気温：29.4℃）	晴れ（最高気温：34.9℃ 最低気温：30.1℃）
場所	UR あけぼの団地集会所前広場	
主な企画	飲食物の販売 パフォーマンス（団地外団体）	飲食物の販売 / 創作活動 パフォーマンス（団地外団体、近隣高等学校）
主催	さっぽろまなびまくり社（札幌市教育委員会学校連携推進プログラム）/ あけぼの団地自治会 札幌市立大学山田研究室 / 富山大学藪谷研究室	
協力	UR都市機構 / URコミュニティ北海道住まいセンター	

4. 実施内容と当日の様子

8/26（土）の全体の配置図を図2、企画内容とそれぞれの参加人数を表2に示している。

1日目（8/25）は、飲食物の販売、パフォーマンスを中心に企画を実施した（写真1）。加えて、団地住民の来訪を促進するため、焼き鳥と飲み物の無料券を配布や、フードロス商品の配布など、団地住民に対する特典を用意した。イベントでは、飲食やパフォーマンスを鑑賞しながら、友人・知人と談笑する団地住民の様子が見られた。また、無料券を使用した人は81人見られたことから、団地住民の来訪を促すために無料券を配布することは有効であることが分かった。しかし、無料券の使用後、イベントに滞在せず帰ってしまう人も見られたことから、滞在してもらえそうな仕掛けが更に必要であると考えた。

2日目（8/26）は、飲食物の販売、パフォーマンスに加え、近隣高等学校の高校生や大学生の企画も実施した（写真2）。イベントでは団地外居住者が多く見られ、その理由として、パフォーマンスや企画に携わる高校生の保護者など、運営者の関係者が多く来訪していたことが推察される。また、親子も多く見られ、子どもたちが会場内で遊ぶ様子や、ワークショップやアート体験に参加する様子も確認できた（写真3）。一方、団地住民は多くは見られなかった。その理由として、2日目は団地住民向けの特典がなかったことや、当日の日中の気温がかなり高く、高齢者の多い団地では、屋外のイベントに参加することが難しかった可能性がある。そのため、プログラムの内容のみならず、開催時期、場所についても再検討する必要があると考える。

2日間を通して、パフォーマンスを鑑賞しながら同伴者と交流する様子が見られたり、アート体験やワークショップの運営者と、企画に参加する来場者が交流している様子が確認できた。これらから、創作や活動発表などのプログラムが、団地内外のコミュニティを形成する可能性があり、芸術祭として実証実験を開催することの有効性が示唆された。

5. まとめ

本編では、コミュニティ形成に向けた実証実験「あけテラ芸術祭 2023」の概要と実施内容を報告した。次編では、参加者に実施したアンケート調査の結果から、プログラムの有効性について考察する。

注1) 新型コロナウイルスの影響により、2020年、2021年は開催することができなかった。

参考文献

1) 藪谷祐介, 山田信博, 有原千尋: 集約初期期団地のコミュニティ形成に向けた実証実験の有効性検証—公的集合住宅団地の集約化手法に関する研究 その8, 日本建築学会学術講演梗概集, pp1013-1014, 2023

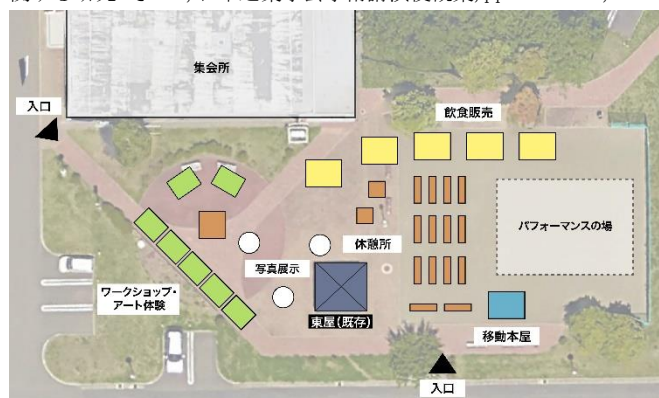


図2 あけテラ芸術祭 2023の配置図 (8/26)
表2 プログラムと参加人数

プログラム	運営主体	参加人数	
		8/25 (金)	8/26 (土)
焼き鳥と飲み物の無料券 (団地住民のみ)	団地自治会	81	—
フードロス商品の配布		不明	—
じゃんけん大会		—	不明
団地住民のお話コーナー	企業	不明	不明
飲食 (たこ焼き/焼き鳥/フライドポテト/クレープ/飲み物/わたあめ/焼きそばなど)	近隣店舗	254	304
本屋	—	—	33
一輪車パフォーマンス	団地外団体	不明	—
よさこい・ライブ		不明	—
ひよっこ踊り		不明	—
和太鼓演奏		—	不明
大道芸		—	不明
紙芝居		—	不明
カラオケ大会	近隣高等学校	不明	—
カレンダー作り		—	43
傘に絵を描くワークショップ		—	51
食と農に関するクイズ		—	35
ストリートピアノ		—	12
ヒーローショー		—	不明
DJ体験		—	不明
あけほの団地の写真展示	大学	不明	不明
コースター作りワークショップ		—	15

※—: 開催されていないもの 不明: 参加人数が不明なもの



写真1 8/25 (金) 実証実験の様子



写真2 8/26 (土) 実証実験の様子



写真3 ワークショップの様子

* 富山大学人文社会芸術総合研究科 大学院生
 ** 富山大学芸術文化学部 学部生
 *** 富山大学学術研究部芸術文化学系 講師・博士
 **** 札幌市立大学デザイン学部 准教授・博士
 ***** バウハウス丸栄

* Students, Graduate School of Art and Design, Univ. of Toyama
 ** Undergraduate, Faculty of Art and Design, Univ. of Toyama
 *** Senior Assist. Prof., Faculty of Art and Design, Univ. of Toyama, Doctor of Design
 **** Associate Prof., School of Design, Sapporo City Univ., Ph.D.
 ***** Bauhaus Maruei